

みずほCustomer Desk Report 2019/09/24号(As of 2019/09/23)

市場営業部 為替営業第二チーム

【昨日の市況概要】

	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY	公示仲値	-
				GBP/USD	AUD/USD
TKY 9:00AM	107.65	1.1019	118.64	1.2469	0.6768
SYD-NY High	107.77	1.1025	118.79	1.2489	0.6781
SYD-NY Low	107.32	1.0966	117.77	1.2413	0.6766
NY 5:00 PM	107.53	1.0993	118.21	1.2433	0.6772
NY DOW	26,949.99	▲ 14.92	日本2年債	-	-
NASDAQ	8,112.46	▲ 5.21	日本10年債	-	-
S&P	2,991.78	▲ 0.29	米国2年債	1.6812	▲ 0.39bp
日経平均	-	-	米国5年債	1.5987	▲ 0.07bp
TOPIX	-	-	米国10年債	1.7224	▲ 0.17bp
シカゴ日経先物	21,810	▲ 20	独10年債	-0.5845	▲ 6.10bp
ロンドンFT	7,326.08	▲ 18.84	英10年債	0.5470	▲ 7.80bp
DAX	12,342.33	▲ 125.68	豪10年債	0.9810	▲ 7.20bp
ハンセン指数	26,222.40	▲ 213.27	USDJPY 1M Vol	6.15	0.25%
上海総合	2,977.08	▲ 29.37	USDJPY 3M Vol	6.45	0.08%
NY金	1,531.50	16.40	USDJPY 6M Vol	6.60	0.11%
WTI	58.64	0.55	USDJPY 1M 25RR	-1.60	Yen Call Over
CRB指数	178.65	1.32	EURJPY 3M Vol	7.15	0.38%
ドルインデックス	98.60	0.09	EURJPY 6M Vol	7.18	0.20%

【昨日の指標等】

Date	Time	Event	結果	予想
9月20日	10:30	日 全国CPI/GPIコア/コアコアCPI(前年比) 8月	0.3%/0.5%/0.6%	0.3%/0.5%/0.5%
9月21日	0:20	米 ローゼン格林・ボストン連銀総裁「追加緩和の必要性、市場の見方に賛同せず」		
	2:00	米 カプラン・ダラス連銀総裁「年内の追加利下げを望まないが、予断を持たず。'20年に1回の利上げ予想。」		
9月23日	21:30	米 シカゴ連銀全米活動指数 8月	0.10	-0.03
	16:30	独 マークイットPMI(製造業/サービス業/総合) 9月	41.4/52.5/49.1	44.0/54.3/51.5
	17:00	欧 マークイットPMI(製造業/サービス業/総合) 9月	45.6/52.0/50.4	47.3/53.3/52.0
	22:50	米 マークイット製造業/サービス業/総合PMI 9月	51.0/50.9/51.0	50.4/51.4/-
	22:50	米 ウィリアムズNY連銀総裁「レボ市場の混乱、適正な銀行準備水準に対し疑問が生じている」		

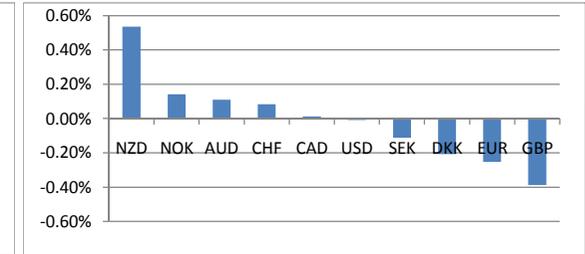
【本日の予定】

Date	Time	Event	予想	前回
9月24日	0.604	日 黒田日銀総裁講演		
	17:00	独 IFO指数(企業景況感/期待/現況) 9月	94.5/92.0/96.9	94.3/91.3/97.3
	23:00	米 コンファレンスボード消費者信頼感 9月	133.0	135.1

【ドル円相場】



【対円騰落率(日次)】



【予想レンジ】

通貨ペア	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY
想定レンジ	107.20-107.80	1.0900-1.1000	117.70-118.70

【マーケットインプレッション】

20日のドル/円は下落。米国を訪れている中国代表団が米モンタナ州の農家視察をキャンセルして予定を早めて帰国するとヘッドラインが伝わると、米中商協定の進展期待が後退し、ドル/円は107.60円台まで下落。その後もドル売りが継続する流れとなり、一時107.52円まで切り下げた。
23日のドル/円は続落。独9月PMI速報値が6年半ぶりに50を下回る低水準をつけたことを受けてユーロ/円が下落し、つられてドル/円も一時107.32円まで下落した。
本日のドル/円は動意薄の推移を予想。日米の金融政策決定を受けて、大きなイベントを乗り越えた状況下で方向感が出にくいものと思われる。引き続き米中商協定に絡んだヘッドラインに警戒するとともに、本日発表の米9月消費者信頼感指数にも注目したい。

アジア	アジア時間を107.65レベルでオープンした週明けのドル円は、前週末に訪米中の中国代表団が農家視察を急遽中止とのヘッドライン等を背景とした米中商協定の進展懸念が引き続き意識され、一時107.61まで下落。もともと、「中国代表団の視察キャンセルについては協議難航が理由ではなく、今回の閣僚級協議に向け綿密な準備が出来た。」と中国メディアが報じたことや東京休場により薄商いとなったこと等からその後は方向感に欠ける展開となり、結局107.72レベルで海外時間へ渡った。(香港時間14:30)
ロンドン	ロンドン時間ドル円は下落した。107.72レベルでオープン。9月の独総合購買担当者景気指数(PMI)速報値は49.1と6年半ぶりに50を下回った。製造業の不振が予想以上に悪化し、他サービス部門も減速したことを受け独の景気先行き不安が強まりユーロ円は118.73レベルでオープン後117.77まで下落した。ドル円はユーロ円の動きに連れ107.32まで下落し107.46レベルでニューヨークへ渡った。ポンドも軟調推移した。1.2461レベルでオープン。英雇用者数約9千人といわれている英旅行会社の清算を受け今後の英雇用状況が懸念されたこととユーロドルの売りにポンドも1.2420まで緩み1.2438レベルでニューヨークへ渡った。(ロンドン時間00:53 144 179 西海)
ニューヨーク	日本が休場で取引量が減少する中、海外市場のドル円は107.80付近での推移が続いたが、ユーロ圏9月製造業ならびにサービス業PMIが予想を下回ったことから、ユーロ円の売りが強まり、ドル円も連れ107.32まで下落し、107.46レベルでNYオープン。朝方は、ウィリアムズNY連銀総裁が「適切な準備金のレベルの関連性とバランスの自立的な拡大の時期を精査する」と発言したがドル円の反応は限定的となる。その後は米金利が下落する展開を受けドル売りに107.35まで下押しするが、低下していた金利が下げ渋る展開にドル円は107.54まで戻す。終盤に掛けては、閑散な取引が続き107.53レベルでクロスした。一方、海外市場で1.1020付近での狭いレンジでの推移が続いたユーロドルは、弱いユーロ圏PMI結果を受けた売りに1.0966まで下落し、1.0985レベルでNYオープン。朝方はドラギECB総裁が「追加の利下げの余地はまだある」と発言したことから下押しする局面もあったが、その後は狭いレンジでの推移が暫らく続く。正午前になりドル売りが優勢になる局面では1.1000まで戻す局面もあったものの、終盤に掛けては閑散なレンジでの推移が続き、1.0993レベルでクロスした。(NY并上)

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

担当: 森谷・綱島